

クラス番号	341	担当教員名	角崎洋平
		他専修学生受入上限人数	0 名

テーマ	「ふつうのくらしのしあわせ」のための経済学
-----	-----------------------

ゼミナール概要

■ 内容

「ふくしと経済」の授業で述べてきましたが、経済とは単にお金儲けをするためのものではありません。経済活動とは、誰かの「欲するもの」「必要とするもの」を提供することで自らも利益を得る活動です。しかし今日の資本主義経済社会では、利益を得ることのみが先だっしまい、「誰かのため」という視点が抜け落ちてしまいがちです。このゼミでは、「誰かのため」を大事にしながら事業をおこなっている民間企業や民間組織取材したり、経済社会の今後を考える文献を読んだりしながら、望ましい経済社会の在り方や、経済社会を望ましくないものになっている原因を考えます。

なお、ここという民間企業や民間組織には、

- ・社会課題解決に取り組む民間企業、地域課題に向き合う地元中小企業
- ・協同組合（生協・信用金庫・信用組合・JA）
- ・社会福祉法人、社会福祉協議会、NPO、その他非営利法人（団体）
- ・地域コミュニティ運営組織

を含みます。

■ 3 年次授業計画

- ・【文献研究】営利が主目的ではなく、社会課題解決や人々の信頼や協力を大事にする経済のありかたを、社会的経済や社会的連帯経済とよびます。また社会課題解決を主目的にする企業を社会的企業とよびます。こうした経済社会・経済活動の在り方を学び、「経済」についてのイメージを広げます。
- ・【調査研究】（グループワークを想定）
「誰かのため」を大事にしながら事業をおこなっている民間企業や民間組織取材し、その活動の時代背景も確認しながら、企業・組織の歴史をまとめ、報告書を作ります。
- ・【実践】東海市・知多市を中心に、地域活動を展開している人たちと連携して、地域の課題解決につながる事業（プロジェクト）を自分たちでもやってみます。必要に応じて「東海市大学連携まちづくり推進事業」に応募して、東海市から補助金を獲得します。

■ 4 年次事業計画

- ・前半は各自で、「ふくし」と「経済」に関するテーマを一つ選定し、卒業論文の構想や研究方法を固めます。
※ 「経済」だからといってテーマは、経済成長・物価や企業経営にまつわる課題にとどまりません。わたしたちの働き方、障害者や高齢者の生活、ワークライフバランス、福祉サービスの質や人材確保、社会福祉法人や非営利企業を取り巻く問題、地元小企業の経営難など、身近で、わたしたちの「ふつうのくらし」に関わる課題はたくさんあります。
- ・夏休み中には卒論の完成を目指し、4 年後期は各自の卒業論文の発表や相互評価を行います。

■ その他留意事項

- ・月曜のゼミ以外の時間に調査や活動で地域にでることもあります（日時についてはゼミ生と相談します）
- ・年間で複数回、懇親会を開催したいです（ゼミ生間の「横のつながり」を大事にしたいと思っています）
- ・「ふくしと経済」「現代生活論」の両方とも未履修の学生には、3 年次でのどちらかの履修を求めます。

担当教員からのメッセージ



エントリーシートでは志望動機とともに、なんでもいいので、皆さんの関心のあることをおしえてください。現段階では必ずしも「経済」に結びつける必要はありません。「福祉」にまつわることでよいですし（いまの「福祉」は嫌いだ、という人も歓迎します）、大学とか税金とかバイト（労働）とか家族とか、身近な「生きづらさ」に関することでもよいです。いまの政治と経済に違和感のある人も歓迎します。ゼミでは、みなさんの関心や問題意識を言語化したり、一歩引いて客観的に分析したりする手伝いをしたいと思っています（だからいま時点ではうまく文章を書けなくてもよいです）。